

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第6号 水稻

発行日 平成23年 8月25日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

## ◎お知らせ

- ・ 全県で新米の安全性を確認するための放射性物質調査を実施します。
- ・ 県の調査結果が終わるまで、出荷・販売・譲渡・贈答は行わないでください。  
なお、県による調査が終了するまでの間に収穫を行う場合は、旧市町村(昭和25年2月時点の市町村)ごとに刈り取り、乾燥・調製、保管していただくようお願いします。
- ・ 調査は、概ね9月30日までの間に随時行い、調査結果は岩手県のホームページや市町村、農業協同組合を通じて、速やかに農家の皆様にお知らせします。  
(問い合わせ先：県庁農産園芸課 019-629-5710)

## ■ 農業機械の点検作業

コンバインや乾燥調製施設の点検、整備を早めに行いましょう。  
点検、整備とあわせ清掃を行い、異品種混入防止に努めましょう。

## ■ 水管理

間断かんがいを基本とし、完全落水は出穂後30～35日後とします。早期落水は品質低下の原因となるので避けましょう。

## ■ 適期刈り取りの励行

刈取適期の判定は黄化籾率で80～90%を目安とします。  
籾水分(20～25%)を確認し、晴れ間をぬってすみやかに収穫しましょう。  
なお、カントリーエレベーター、ライスセンターをご利用の方は施設の稼働時期を確認の上で刈り取り計画をたてましょう。

## ■ 仕上げ水分は15%以下

籾の乾燥では二段乾燥を心がけ、玄米水分を15%に仕上げてください。

## 1 生育状況

水稻の出穂期は県全体で平年並の8月7日でした(表1)。出穂後も好天で経過していますので、登熟も順調にすすんでいると予想されます。

表 1 水稻の地帯別出穂時期

各農業改良普及センター調べ

農業地帯	出穂時期(月/日)											
	本年			平年			平年差(日)			前年		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
北上川上流	8/4	8/8	8/12	8/2	8/6	8/11	2	2	1	7/30	8/3	8/8
北上川下流	8/4	8/7	8/11	8/4	8/7	8/11	0	0	0	8/1	8/4	8/8
東 部	8/4	8/7	8/10	8/4	8/8	8/13	0	-1	-3	7/31	8/4	8/8
北 部	8/3	8/7	8/10	8/4	8/7	8/11	-1	0	-1	7/29	8/2	8/7
県全体	8/4	8/7	8/11	8/3	8/7	8/11	1	0	0	7/31	8/4	8/8

注) 1 平年値は平成11年～22年(12と15年を除く)の10か年の平均値  
 2 始期、盛期、終期は各々地帯で概ね10%、50%、90%の水田が出穂期となった日

## 2 気象経過

8月も気温は平年にくらべ高く経過しております(図1)。東北地方の1ヶ月予報(仙台气象台8月19日発表)によると、期間の前半は気温の変動が大きく、2週目は平年に比べ高くなる見込みです。天気は周期的にかわるものの今後も気温は高いと予想されます。

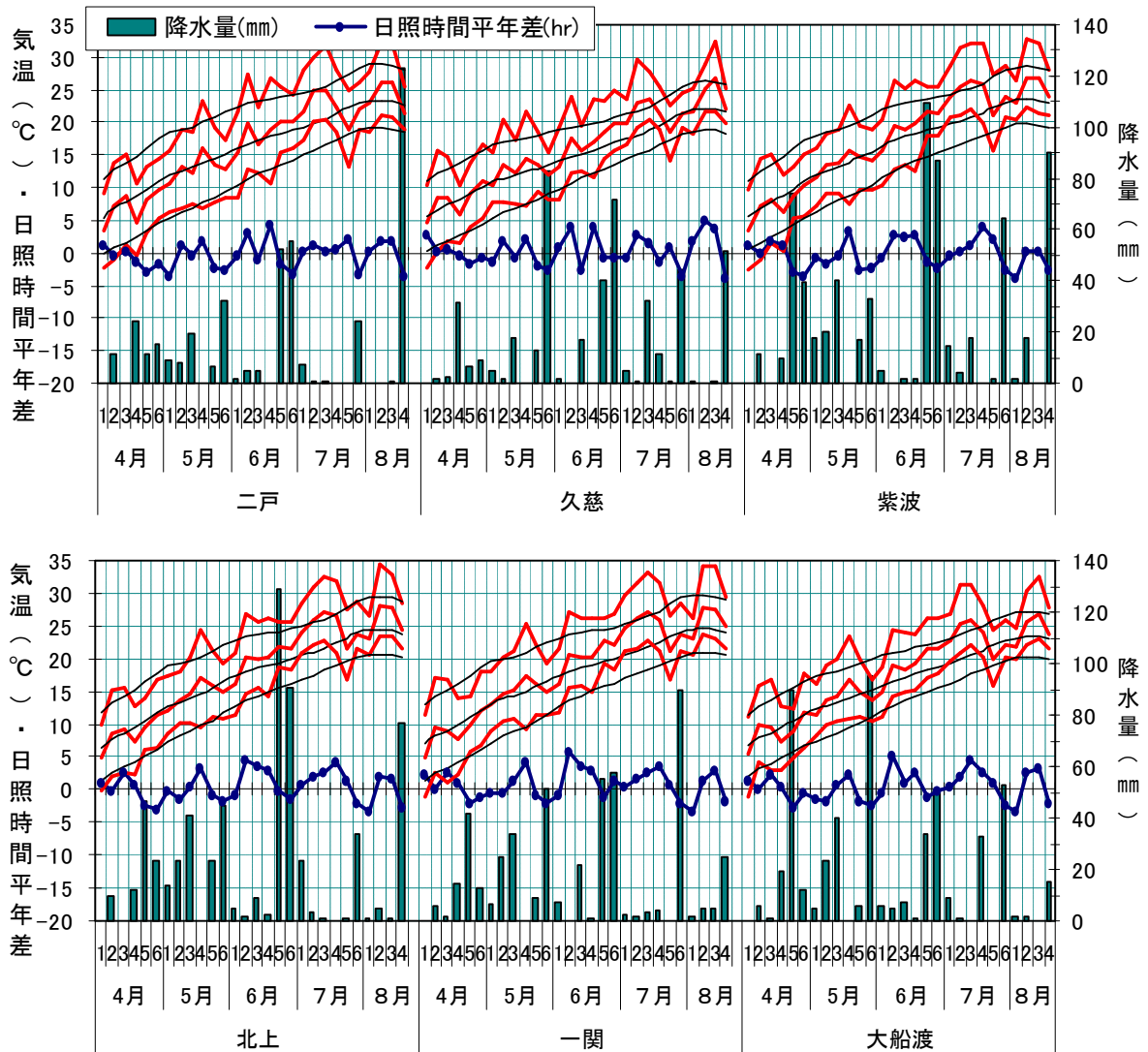


図 1 半旬別気象経過図(4月第1半旬～8月第4半旬)

### 3 登熟を低下させない水管理

登熟期の高温は品質低下の原因となります。登熟を低下させない水管理を心掛けましょう。

登熟期間の水管理は食味、品質及び収量に大きく影響します。根の活力を維持するため間断かんがいをを行い、田面が湿っている程度の水分を保つような水管理を実施してください。

早すぎる落水は収量のみならず品質を落とす原因になりますので、落水時期は、以下を目安に実施してください。

- ◆ 排水が悪く地下水位が高い水田・・・・・・・・出穂30～35日頃
- ◆ 排水のよい水田・・・・・・・・・・・・・・出穂35～40日頃

\*台風、大雨等で浸冠水の恐れがあるときは、水尻を開放し排水を促すようにします。浸冠水した場合は、葉先を早く出すことが重要となるので、速やかな排水に努めます。ただし、稲体が水分を失いやすい状態にあるため、田面を急激に干さないようにしてください。

### 4 適期刈り取りの励行

高品質生産のために適期刈り取りは重要です。黄化籾割合80～90%となったら刈り取りを行ってください。なお、全県で新米の安全性を確認するための放射性物質調査を実施します。カントリーエレベーター、ライスセンターをご利用の方は施設の稼働時期を確認の上で刈り取り計画をたてましょう。

#### ◆刈り取り適期の予測

刈り取り適期の予測は出穂期からの日平均気温の積算による方法で行います。品種ごとに刈り取り適期の目安となる積算気温が定められていますので表2を参考にしてください。

本年の各地域での**刈り取り始めの目安**となる日（日平均積算気温950℃に到達する日）は9月16日～20日で、平年並から4日程度早まる予想（表3、図2）です。コンバイン、乾燥調整施設の清掃、点検整備は早めにすませ、刈り取りを行うための準備を進めましょう。

表2 主要品種の積算気温による刈り取り適期の目安

品種名	刈り取り適期の積算気温
ひとめぼれ	900～1,050℃
どんぴしゃり	950～1,050℃
あきたこまち	950～1,100℃
かけはし	950～1,050℃
いわてっこ	950～1,050℃
ササニシキ	1000～1,150℃
ヒメノモチ	950～1,050℃
もち美人	950～1,050℃

表3 各地域における出穂期と日平均積算気温950℃到達日の予測

農業地域	本年			平年			平年差			出穂期～日平均気温積算温度950℃到達日(月/日)											
	(H11～H22の平均値ただし、H12、H15を除く)									出穂始期～				出穂盛期～				出穂終期～			
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	本年	平年	平年差	前年	本年	平年	平年差	前年	本年	平年	平年差	前年
花巻	8/5	8/8	8/11	8/4	8/7	8/10	1	1	1	9/12	9/15	-3	9/9	9/17	9/19	-2	9/12	9/21	9/23	-2	9/18
北上	8/7	8/10	8/13	8/4	8/8	8/12	3	2	1	9/11	9/15	-4	9/9	9/16	9/20	-4	9/14	9/21	9/25	-4	9/21
遠野	8/5	8/7	8/10	8/2	8/6	8/10	3	1	0	9/14	9/15	-1	9/8	9/19	9/21	-2	9/12	9/24	9/26	-2	9/19
西和賀	8/5	8/8	8/12	8/3	8/8	8/12	2	0	0	9/15	9/18	-3	9/12	9/21	9/25	-4	9/14	9/25	10/1	-6	9/21
盛岡	8/4	8/8	8/13	8/4	8/7	8/11	0	1	2	9/14	9/17	-3	9/10	9/20	9/21	-1	9/14	9/25	9/27	-2	9/22
紫波	8/4	8/7	8/12	8/2	8/5	8/11	2	2	1	9/13	9/14	-1	9/5	9/18	9/17	1	9/8	9/23	9/26	-3	9/19
八幡平	8/3	8/7	8/11	7/31	8/6	8/10	3	1	1	9/15	9/14	1	9/10	9/20	9/22	-2	9/14	9/25	9/28	-3	9/22
奥州	8/2	8/6	8/11	8/4	8/7	8/11	-2	-1	0	9/11	9/14	-3	9/8	9/16	9/18	-2	9/12	9/21	9/23	-2	9/18
一関	8/4	8/6	8/9	8/3	8/6	8/9	1	0	0	9/11	9/13	-2	9/8	9/16	9/16	0	9/10	9/20	9/21	-1	9/15
大船渡	8/2	8/5	8/8	8/4	8/8	8/12	-2	-3	-4	9/13	9/15	-2	9/11	9/17	9/21	-4	9/16	9/21	9/27	-6	9/20
釜石	8/3	8/6	8/8	8/4	8/7	8/10	-1	-1	-2	9/13	9/15	-2	9/9	9/18	9/19	-1	9/13	9/22	9/24	-2	9/19
宮古	8/6	8/8	8/11	8/4	8/7	8/12	2	1	-1	9/14	9/17	-3	9/6	9/19	9/22	-3	9/12	9/23	9/28	-5	9/19
岩泉	8/5	8/7	8/11	8/4	8/9	8/12	1	-2	-1	9/14	9/18	-4	9/4	9/20	9/24	-4	9/12	9/25	9/30	-5	9/20
久慈	8/5	8/8	8/10	8/4	8/8	8/12	1	0	-2	9/15	9/18	-3	9/7	9/20	9/23	-3	9/13	9/24	9/30	-6	9/20
二戸	8/2	8/7	8/10	8/3	8/6	8/10	-1	1	0	9/14	9/15	-1	9/6	9/20	9/21	-1	9/12	9/24	9/26	-2	9/19
軽米	8/3	8/7	8/10	8/3	8/6	8/11	0	1	-1	9/15	9/19	-4	9/9	9/21	9/23	-2	9/15	9/26	9/29	-3	9/22
北上川上流	8/4	8/8	8/12	8/2	8/6	8/11	2	2	1	9/14	9/15	-1	9/9	9/19	9/20	-1	9/13	9/24	9/27	-3	9/21
北上川下流	8/4	8/7	8/11	8/4	8/7	8/11	0	0	0	9/11	9/14	-3	9/8	9/16	9/18	-2	9/12	9/21	9/23	-2	9/18
東部	8/4	8/7	8/10	8/4	8/8	8/13	0	-1	-3	9/14	9/16	-2	9/8	9/18	9/22	-4	9/14	9/23	9/28	-5	9/20
北部	8/3	8/7	8/10	8/4	8/7	8/11	-1	0	-1	9/14	9/17	-3	9/7	9/20	9/22	-2	9/13	9/25	9/28	-3	9/20
県全体	8/4	8/7	8/11	8/3	8/7	8/11	1	0	0	9/12	9/14	-2	9/8	9/17	9/19	-2	9/12	9/22	9/24	-2	9/19

\* 各地域の代表アメダスの8月21日までの実測値、以降は平年値を使用して950℃到達日を予測

\* 出穂始期：10%出穂、出穂盛期：50%出穂、出穂終期：90%出穂した日

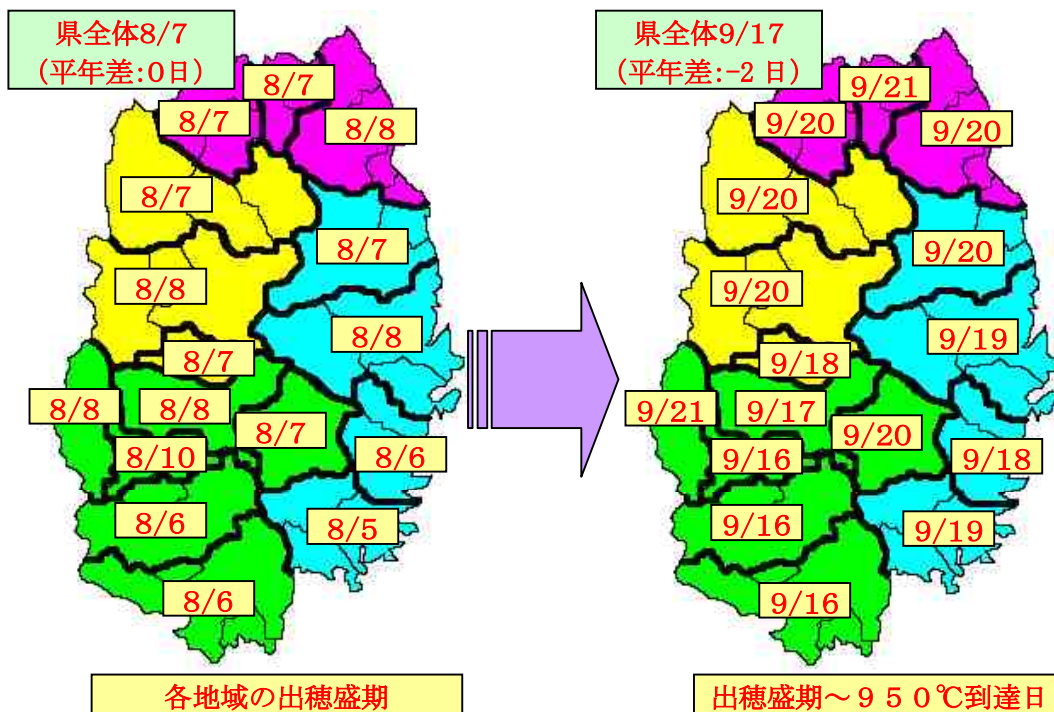


図2 各地域における出穂盛期から日平均積算気温950℃到達日の予測  
 ※ 各地域の代表アメダス地点の日平均気温の積算(8/21までは実測値、それ以降は平年値を使用)

#### ◆ 刈り取り適期の判断 ◆

出穂からの登熟積算気温が950℃に近づいたら、

- 籾の黄化割合を随時チェックし、
- 籾の黄化割合が80～90%となったら刈り取りを行ってください。

#### ◆ 刈り取り適期判断等の留意点 ◆

##### ○ 積算気温は目安にとどめる

積算気温による方法は栽培法や日照時間によりズレが生じる場合もあるので、最終的には、籾の黄化割合（80～90%が黄色で、穂基部の1割程度が緑色）で判断することを基本としてください。

##### ○ 籾水分の確認

コンバイン収穫では、作業開始前に水分計を用いて籾の水分状態が20～25%にあることを確認しましょう。

##### ○ 水田内で出穂のばらつきが大きい場合

1枚のほ場においても出穂のばらつきが見られます。水口などで登熟が大幅に遅れているような場所は、刈り分けして品質低下を避けてください。

##### ○ 倒伏した場合

台風や大雨等により倒伏した場合は刈り分けを行い、青未熟粒等の混入を避けてください。

##### ○ テスト籾すりによる品質チェック

着色粒は出穂後の日平均積算気温が750℃頃から出始めることから、随時テスト籾すりを行い、刈取適期を判定してください。

## 5 乾燥・調製の留意点 **仕上げ水分は15.0%以下を徹底！！**

### (1) 胴割れ粒の発生防止

毎時乾減率（1時間当りの水分低下）を0.8%以下とし、送風温度に十分に注意してください。急激な乾燥を避け、また、過乾燥にならないよう注意が必要です。

水分のバラつきが大きい場合は、水分測定をこまめに行い、籾水分18%の時に一旦乾燥機をとめて放冷・循環常温通風し、その後仕上げ乾燥して籾水分の均質化を図ります（二段乾燥）。

自然乾燥においては、掛け替えを行うなど乾燥に努め、乾燥期間は2週間以内としてください。

### (2) 籾すり時の肌ずれ、脱ぶの防止

玄米水分15.0%以下の適正水分で籾すりを行います。（肌ずれ米の防止）

ゴムロールのすき間は、籾の厚さの約1/2（0.5～1.2mm）が標準です。

脱ぶ率は条件により変化するので、85%程度になるようロール間隔を調整します。

### (3) ライスグレーダー

出荷製品となる玄米は、LL（1.9mm）の篩目使用を基本とし、整粒歩合80%以上となるよう努めましょう。

## 6 異品種混入の防止

現在、全国的に異品種の混入が問題となっており、DNAの解析により米一粒からでも品種の判定ができるようになってきました。

異品種の混入が発生した場合には、品種名の表示ができなくなり、そのまま米を出荷すると、JAS法表示違反となるばかりか、産地全体のイメージを損ねることになります。

このような事態を回避し産地の信頼を確保するため、異品種混入を防ぐ管理に心掛けましょう。

特に、コンバイン、運搬機、乾燥機や籾摺機など収穫・乾燥・調製機械や施設内には、前年に収穫し

た粉等が残留している可能性があります。収穫が始まるまでにこれらの機械や施設の点検・清掃を行い、異品種の混入を未然に防止してください。

## 7 農作業安全

収穫時期は日没が早いので、夕方に農作業事故の発生が多くなります。余裕のある作業計画とし、農作業安全に努めます。

農作物技術情報第7号は9月29日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。

※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。